第１０号議案

議題１　全国大会実施基準改定に関して

日連では、令和２年度臨時代議員会で承認された「全国大会実施基準改定スケジュール」に従い、プロジェクト発表会および意見発表会の新分野について協議しましたので、ここに提案します。

また、令和２年度春季代議員会・第10号議案の議題１で示した農業鑑定競技会の「分野および大項目（案）」については既に承認されておりますが（以下「現案」という。）、全国約230校の単位クラブから寄せられた「全国大会実施基準改定に向けたアンケート」(８月31日～10月1日実施)の結果、ならびに全国大会実施基準検討委員会における協議内容等をもとに、大項目を以下の通り見直すよう検討しましたので、併せて提案します。

（１）プロジェクト発表会の新分野について（案）

①発表分野と内容

|  |  |
| --- | --- |
| 分　野 | 内　容 |
| Ⅰ類  農業生産  農業経営 | １　農業生物の育成や生産性向上に関すること  ２　農業生産物の加工・流通・消費に関すること  ３　農業の経営や経済活動に関すること |
| Ⅱ類  国土保全  環境創造 | １　国土の保全や環境創造に関すること  ２　森林資源の活用に関すること |
| Ⅲ類  資源活用  地域振興 | １　園芸作物や社会動物の活用に関すること  ２　地域資源の活用や地域の振興に関すること |

②具体的な研究内容

|  |  |
| --- | --- |
|  | 具体的な研究内容（例） |
| Ⅰ類  農業生産  農業経営 | ・栽培・飼育に関する研究  ・肥料や薬剤に関する研究  ・農業生産物の加工・流通・保全・管理に関する研究  ・農業経営・農業経済に関する研究　など |
| Ⅱ類  　国土保全  環境創造 | ・農業土木や造園、林業の事業の計画・実施・管理に関する研究  ・生物多様性の保全に関する研究  ・林産物の利用に関する研究  ・持続可能な環境の創造に関する研究　など |
| Ⅲ類  　資源活用  地域振興 | ・園芸作物や社会動物を用いた生活の質を向上させる研究  ・療法や交流に必要な技術に関する研究  ・農山村社会や地域社会に根ざした事業の振興に関する研究  ・地域資源の魅力創造・異業種連携・商品価値の創造・情報の活用と発信や観光  に関する研究  ・食農教育や農福連携に関する研究　など |

（２）意見発表会の新分野について（案）

①発表分野と内容

|  |  |
| --- | --- |
| 分　野 | 内　容 |
| Ⅰ類  農業生産  農業経営 | １　農業生物の育成や生産性向上に関する意見  ２　農業生産物の加工・流通・消費に関する意見  ３　農業の経営や経済活動に関する意見 |
| Ⅱ類  国土保全  環境創造 | １　国土の保全や環境創造に関する意見  ２　森林資源の活用に関する意見 |
| Ⅲ類  資源活用  地域振興 | １　園芸作物や社会動物の活用に関する意見  ２　地域資源の活用や地域の振興に関する意見 |

②具体的な発表内容

|  |  |
| --- | --- |
|  | 具体的な発表内容（例） |
| Ⅰ類  農業生産  農業経営 | ・栽培・飼育に関する意見  ・肥料や薬剤に関する意見  ・農業生産物の加工・流通・保全・管理に関する意見  ・農業経営・農業経済に関する意見　など |
| Ⅱ類  　国土保全  環境創造 | ・農業土木や造園、林業の事業の計画・実施・管理に関する意見  ・生物多様性の保全に関する意見  ・林産物の利用に関する意見  ・持続可能な環境の創造に関する意見　など |
| Ⅲ類  　資源活用  地域振興 | ・園芸作物や社会動物を用いた生活の質を向上させる意見  ・療法や交流に必要な技術に関する意見  ・農山村社会や地域社会に根ざした事業の振興に関する意見  ・地域資源の魅力創造・異業種連携・商品価値の創造・情報の活用と発信や観光  に関する意見  ・食農教育や農福連携に関する意見　など |

≪（１）、（２）についての補足説明≫

高等学校学習指導要領（平成３０年告示）農業編における分野構成は、「農業生産や農業経営」、「食品製造や食品流通」、「国土保全や環境創造」、「資源活用や地域振興」の４つである。このうち「食品製造や食品流通」の分野については、他の３つの各分野の内容と関連させることにより内容の深まりや広がりが期待されるため、発表分野の類としては独立して設定しないこととした。

発表する分野を決定する際には、発表内容の基となる農業クラブ活動の目的が、高等学校学習指導要領（平成３０年告示）農業編における分野構成のどの分野に該当するものであるかを考慮し、判断する。

発表の基礎となる関係科目が複数の分野にまたがるような場合においても、その活動がⅠ～Ⅲ類のどの分野に関する課題意識を持った活動であるかを考慮し、分野を決定する。

（３）農業鑑定競技会の「分野および大項目（現案）」の見直し（一部変更）について

　①「分野および大項目」の見直しについて

　　新学習指導要領の教科「農業」における分野構成と農業鑑定競技会の分野および大項目（現案）

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 分野構成 | 分　野 | 大　項　目 | | | | | |
| 基礎的な科目 | ０．共通 | 農業と環境 | 農業と情報 |  |  |  |  |
| １．作物 | 作物 | 栽培と環境 | 農業経営 | 植物ﾊﾞｲｵﾃｸﾉﾛｼﾞｰ | 農業機械 |  |
| ２．野菜 | 野菜 | 栽培と環境 | 農業経営 | 植物ﾊﾞｲｵﾃｸﾉﾛｼﾞｰ | 農業機械 |  |
| ３．果樹 | 果樹 | 栽培と環境 | 農業経営 | 植物ﾊﾞｲｵﾃｸﾉﾛｼﾞｰ | 農業機械 |  |
| ４．草花 | 草花 | 栽培と環境 | 農業経営 | 植物ﾊﾞｲｵﾃｸﾉﾛｼﾞｰ | 農業機械 |  |
| ５．畜産 | 畜産 | 飼育と環境 | 農業経営 | 農業機械 | 食品製造 |  |
| 食品製造や  食品流通 | ６．食品 | 食品製造 | 食品科学 | 食品微生物 | 食品流通 |  |  |
| 国土保全や  環境創造 | ７．森林 | 森林科学 | 森林経営 | 林産物利用 | 測量 |  |  |
| ８．農業土木 | 農業土木設計 | 農業土木施工 | 水循環 | 測量 |  |  |
| ９．造園 | 造園計画 | 造園施工管理 | 造園植栽 | 測量 |  |  |
| 資源活用や  地域振興 | 10. 生活 | 野菜 | 草花 | 生物活用 | 地域資源活用 | 食品製造 | 家庭基礎 |

　　新学習指導要領の教科「農業」における分野構成と農業鑑定競技会の分野および大項目（変更案）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 分野構成 | 分　野 | 大　項　目 | | | | |
| 基礎的な科目 | ０．共通 | 農業と環境 | **（削除）** |  |  |  |
| １．作物 | 作物 | 栽培と環境 | 農業経営 | 植物ﾊﾞｲｵﾃｸﾉﾛｼﾞｰ | 農業機械 |
| ２．野菜 | 野菜 | 栽培と環境 | 農業経営 | 植物ﾊﾞｲｵﾃｸﾉﾛｼﾞｰ | 農業機械 |
| ３．果樹 | 果樹 | 栽培と環境 | 農業経営 | 植物ﾊﾞｲｵﾃｸﾉﾛｼﾞｰ | 農業機械 |
| ４．草花 | 草花 | 栽培と環境 | 農業経営 | 植物ﾊﾞｲｵﾃｸﾉﾛｼﾞｰ | 農業機械 |
| ５．畜産 | 畜産 | 飼育と環境 | 農業経営 | 農業機械 | 食品製造 |
| 食品製造や食品流通 | ６．食品 | 食品製造 | 食品科学 | 食品微生物 | 食品流通 |  |
| 国土保全や環境創造 | ７．森林 | 森林科学 | 森林経営 | 林産物利用 | 測量 |  |
| ８．農業土木 | 農業土木設計 | 農業土木施工 | 水循環 | 測量 |  |
| ９．造園 | 造園計画 | 造園施工管理 | 造園植栽 | 測量 |  |
| 資源活用や地域振興 | 10. 生活 | 生物活用(※) | 地域資源活用 | 食品製造 | 家庭基礎 |  |

（※）現案の大項目にあった「野菜」「草花」の内容は「生物活用」の中に位置付けることとする

② 検討内容

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 検討内容 | 検討結果 | 備 考 |
| ・「分野０.共通」から  「農業と情報」を削除することについて | ・「農業と情報」を削除する | 「農業と情報」分野の能力育成に関しては、引き続きの検討課題とする |
| ・「分野７．森林」に  「水循環」を追加する  ことについて | ・追加は行わない（現案のまま） | 下記「③ 補足説明」参照 |
| ・「分野10.生活」の  　大項目の精査について | ・大項目の「野菜」・「草花」を削除する | 「野菜」・「草花」については、大項目「生物活用」の中項目として位置付けを見直す |
| ・大会運営側の負担軽減  　をねらいとした分野数  の削減について | ・分野の削減、見直しは行わない（現案  のまま） | 大会運営方法や事務作業の工夫改善により、運営側の負担軽減を図っていく |

③ 補足説明

「分野７．森林」の大項目に「水循環」を加えることについて検討したが、森林関係科目を履修している学科（「森林科学」を必履修としている学科）において「森林経営」・「林産物利用」・「測量」については少なくとも６割以上の学校が履修している（選択科目を含む）一方で、「水循環」の履修は約15％にとどまることが確認されたことから、追加は行わないという結論に至った。

　【参考】

　　○「森林科学」を履修（必修）している学校数を100とした場合（令和２年度）

　　　・「森林経営」を履修している学校数　60（選択含む）

　　　・「林産物利用」　　〃　　　　　　　90（同）

　　　・「測量」　　　　　〃　　　　　　　73（同）

　　　・「水循環」　　　　〃　　　　　　　15（同）

④ 令和２年度の検討過程等

・５月　春季代議員会において「農業鑑定競技会 実施基準の分野と大項目（案）」を提示し、承認を得た。

（議案承認書による議決）

・６月　中央指導委員会において、全国大会実施基準等改定スケジュールの見直しについて協議した。

・８月　中央指導委員会において、全国大会実施基準改定スケジュールの変更案について協議した。

また、改定に向け全国の単位クラブから多くの意見を集約すること（パブリックコメント）を

目的として、日連ホームページ上でアンケートを実施することを決定した。

・８月31日～10月１日　「全国大会実施基準改定に向けたアンケート」を実施した。

・９月　第２回常任理事会において、全国大会実施基準改定スケジュールの変更案を確定し、臨時代議

員会での提案に向けて準備を進めていくことを確認した。

・10月　臨時代議員会にて全国大会実施基準等改定スケジュールの変更案について提示し、承認を得た。

・10月「全国大会実施基準改定に向けたアンケート」に寄せられた意見等について整理した。

（回答：約230校）

・11月　中央指導委員会にて、同アンケートの回答内容について確認した。

・12月　中央指導委員会にて、同アンケートの回答内容等を踏まえて作成した「農業鑑定競技会 実施基

準の分野と大項目」の一部変更案について協議した。

・３月　令和２年度全国大会実施基準検討委員会において同変更案について協議し、令和３年度春季代

議員会における提案内容について検討・確認した。

　　　 （出席者：文部科学省教科調査官、日連代表、中央指導委員）

⑤ アンケート回答（意見）より一部抜粋 【参考】

１）「分野０．共通」について

　 ○「農業と情報」は農業鑑定協議の項目として必要か。共通に含まれる「農業と環境」の出題範囲が

広いため。

　 ○「農業と情報」が大項目にあるが、内容の変化が速いため、基準の見直しが毎年必要になるのでは

ないか。現状のまま、「農業と環境」のみで共通の問題数を増やす方が良いと考える。

　 ○過去に「農業情報処理」が大項目に含まれたが、数年で現状に戻った経緯を見ると、「農業と情報」

も農鑑の特性から大項目としてそぐわないのでは。

２）「分野７．森林～分野９．造園」について

　 ○「水循環」を出題範囲の量（の問題で）削減するのはおかしい。森林と造園を学ぶなかで重要な

科目であれば、削除すべきではない。

　 ○「水循環」は森林・林業における重要な学習内容であるため、出題範囲を増やしてでも残すべきも

のである。

３）「分野１０.生活」について

　 ○生活の分野は大項目が多く、範囲が広いと思われます。

○大項目が各教科にまたがり、学習範囲が他分野よりも広いと思います。精査することが必要ではな

いでしょうか。

４）「分野および大項目（案）」全般について

　 ○大会運営にあたり、部門が増えるということは大会のための準備や人員配置も大変になり、働き方

改革を推進している世の中に逆行していて相応しくない。

　 ○県大会での実施や運営については実施するレーンが増えることとなり、運営が負担になると予想さ

れます。

　 ○分野が増えると事務局負担が増えるのではないか。